

9月8～9日にかけて、台風15号は三重県をそれましたが、今週は猛暑の日々が続きます。子どもたち（先生も）の熱中症予防に気を付けながらの運動会練習の真最中です。お子さんが帰宅しましたら、水分と休憩を十分とってから、涼しい環境で家庭学習等に取り組みさせてください。

「PTA教育講演会」・「教職員と語る会」開催



9月7日（土）の第2回PTA全体会の後、「ころをはぐくむ整理収納～分けるを通して自らで選ぶ人生を～」をテーマに、整理収納アドバイザーの須藤美紀さんを講師にお迎えし、PTA教養交流部主催の教育講演会が開催されました。明日から家庭や学校で役立てそうな講演内容なので、以下に講演内容の一部を載せました。参考にしてください。

＜子どもとの整理収納の進め方＞

- ・ 大人が主導権を握るのではなく、子どもに質問し、子ども自らの「片付けたい」を引き出す。
例：○「何年生になってから一度でも使った？」×「いるの？いないの？」
- ・ 子どもの片付け作業に集中できる時間は、1年生で大人と一緒にやっても15分程度。
- ・ よく使う引き出しひとつから全部出して、種類ごとに分けてみる。
- ・ 必要・不要の大人の選択ではなく、子どもが今、使う・使わないで分けてみる。
- ・ 処分の際は、子どもの同意を得る。
- ・ 思い出の物は「思い出BOX」へ収納する。迷ったら別の空間で一時保存しておく。

＜収納を維持するための工夫＞

- ・ 収納場所にラベルを貼ることで、他の物を置かないためのブレーキとする。
- ・ 親（大人）も自分の範囲を同じように片づけ、子どもと「気持ちよさ」を共有する。
- ・ 片付け作業は、長期休みや学年が変わる時がチャンス。

＜まとめ＞

- ・ 分ける力がつくと、「自らで選ぶ力」がつく。探す時間が減り、不要な物を購入しなくて済む。
- ・ 散らかる、物があふれる原因が不明だと、一度片付けてもすぐにリバウンドしてしまう。
- ・ “整理”をすることは、自分を見つめ、自分に必要なモノを選び抜くこと。
- ・ “収納”を考えることは、自分や家族を思いやること。

＜最後に…＞

- ・ 基本は、日々の親子間のコミュニケーションの継続・積み重ね。聴くことで子どもの「片付けたい」を引き出す。喜びや成果を大人と共有する（やってよかった！部屋がきれいになったね！等）。

※親子間のコミュニケーションに関わって、今回の「全国学力・学習状況調査」結果について、四郷っ子（6年生）の「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話しますか？」の肯定回答は、全国平均を下回っています。ご多用の中ですが、お子さんに「最近、学校はどう？」と時折聴いていただけるとありがたいです。

※全国学力・学習状況調査結果および分析は、「学校だより第15号」でお知らせする予定です。

通学路（学校東側斜面）の通行止め解除

9月4・5日の集中豪雨に伴う土砂崩れ復旧工事が終了しました。市行政より「通行可」の連絡がありましたので、9月11日の下校時から、従来の通学路に戻しました（大雨時等、学校職員が随時確認します）。

